



東北大学

平成26年10月7日

報道機関 各位

東北大学大学院法学研究科
東北大学大学院理学研究科

**国際シンポジウム「『科学の専門知を法廷でどう扱うか?』
NSW土地環境裁判所長官プレストン判事を迎えて」のご案内**

医療過誤、地球温暖化への対処など、科学だけでは正解が出せない先端技術・環境予測などで、司法は専門的知識をどのように扱うことができるでしょうか。また、科学者はどのような役割を果たすべきなのでしょう。科学裁判の画期的手法「コンカレント・エヴィデンス」を生み出したNSW州土地環境裁判所長官であり、環境法学者としても知られるブライアン・プレストン(Brian Preston)判事の来日を機に、日豪第一線の裁判官が、両国の具体的制度を互いに紹介し、法学者・科学者と共に、これからの科学裁判の可能性と課題を明らかにします。

つきましては、市民の皆様幅広く周知していただくとともに、当日ご取材の上、紙面、番組等で紹介いただけますよう、お願いいたします。なお、ご取材を希望される際は、二枚目問い合わせ先までご連絡願います。

【日時】 2014年10月24日（金） 10時～12時30分 （同時通訳あり、無料、要申込）

【場所】 弁護士会館・講堂「クレオ」

（東京都千代田区霞ヶ関1-1-3、地下鉄霞ヶ関駅B1-b直結）

【対象】

法律家、医学、工学等を含む広い意味での科学者、科学的専門知の利用に関心がある
ジャーナリストや研究者

【申込み方法】

件名を「シンポジウム参加申し込み」として、氏名、職業、連絡先（メールアドレスや電話番号など）を記載して、Eメール sy826@mail.sci.tohoku.ac.jp まで申込みください。

【事前申込締切】 2014年10月20日（月）正午

【シンポジウム当日、会場での参加申込】

会場に余裕がある限り可能です。ただし、同時通訳レシーバーは事前申込数を基本に（若干の余裕を持って）手配しますので、当日参加申込の方については先着順での利用となります。詳しくはお問い合わせください。

講演

「専門的証拠のための特別な裁判手続」

—————オーストラリアNSW州土地環境裁判所長官 ブライアン・プレストン

「専門的知見の獲得のための工夫：座談会方式の経験から」

—————東北大学法科大学院教授（元仙台地裁）信濃孝一

「日本における専門的知見の獲得のための制度と方策：カンファレンス鑑定、複数鑑定、
専門委員、専門家調停」 —————東京地方裁判所判事 岡崎克彦

パネルディスカッション

講演者3名，岡山家庭地方裁判所倉敷支部判事 寺田利彦，東京大学法学部准教授（民法，
医事法，医師）米村滋人

司会：立命館大学法学部教授 渡辺千原，東北大学大学院理学研究科准教授 本堂 毅

- 【主催】 日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究（A）
「科学技術の不確実性と法的規制—学際的観点からの包括的制度設計の試み」
- 【共催】 日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究（A）
「科学の多様な不定性と意思決定：当事者性から考えるトランスサイエンス」
- 【問い合わせ先】 東北大学大学院理学研究科本堂研究室内 シンポジウム事務局
[tel] 022-795-5823 [fax]022-795-5831
[E-mail]sy826@mail.sci.tohoku.ac.jp
- 【詳細】 <http://www.sci.tohoku.ac.jp/hondou/concurrent/>

（お問い合わせ先）

東北大学大学院理学研究科本堂研究室内 シンポジウム事務局

Tel 022-795-5823 Fax 022-795-5831

E-mail sy826@mail.sci.tohoku.ac.jp

NSW 土地環境裁判所長官 プレストン判事を迎えて

裁判では法的判断に際し、多様な不定性を内在する科学技術・医療などの専門的知見を利用する必要が生じます。

専門的知見活用のための新しい手法として世界的に注目される「コンカレント・エヴィデンス」を育んだオーストラリア・ニューサウスウェールズ (NSW) 州土地環境裁判所長官として、豊富な経験を持つ Brian Preston 判事の来日を機に、日豪一線の実務法律家が具体的工夫・手法を互いに紹介し、法学者・科学者と共に今後の可能性と課題を明らかにしていきます。

講演

専門的証拠のための特別な裁判手続

オーストラリア NSW 土地環境裁判所長官 ブライアン・プレストン

専門的知見の獲得のための工夫：座談会方式の経験から

東北大学法科大学院教授 信濃 孝一

日本における専門的知見の獲得のための制度と方策：

カンファレンス鑑定、複数鑑定、専門委員、専門家調停

東京地方裁判所判事 岡崎 克彦

パネルディスカッション

ブライアン・プレストン

岡崎 克彦

信濃 孝一

岡山家地裁倉敷支部判事
寺田 利彦

東京大学法学部准教授
米村 滋人

司会

立命館大学法学部教授 渡辺 千原

東北大学大学院理学研究科准教授 本堂 毅

10/24 2014 (金) 10:00-12:30

同時通訳あり

要申込

参加無料

弁護士会館 講堂「クレオ」 東京都千代田区霞が関 1-1-3
地下鉄霞ヶ関駅 B1-b 出口より直結

お申込み・お問い合わせ

東北大学大学院理学研究科 本堂 毅

sy826@mail.sci.tohoku.ac.jp tel. 022-795-5823 fax. 022-795-5831

同時通訳レシーバー準備の都合上、事前申込にご協力ください。
レシーバーは相当数準備しますが、当日参加者への配布は先着順となります。

【対象】 法律家、医学・工学等を含む広い意味での科学者
科学的専門知の利用に関心をお持ちのジャーナリストや研究者

主催：科学研究費補助金・基盤研究 (A)

「科学技術の不確実性と法的規制—学際的観点からの包括的制度設計の試み」

共催：科学研究費補助金・基盤研究 (A)

「科学の多様な不定性と意思決定：当事者性から考えるトランスサイエンス」

プログラム等を掲載しています：<http://www.sci.tohoku.ac.jp/hondou/concurrent/>

科学の専門知を
法廷でどう扱うか？